

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																												
つくば栄養医療調理製菓専門学校	平成15年3月27日	今井 恭子	〒 300-1207 (住所) 茨城県牛久市ひたち野東1-14-8 (電話) 028-870-5454																																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																												
学校法人 晃陽学園	平成5年3月31日	齋藤 行信	〒 306-0011 (住所) 茨城県古河市東1-5-26 (電話) 0280-31-7888																																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																											
医療	専門課程	救急救命学科	平成27(2015)年度	-																																											
学科の目的	本校の教育理念に基づき、第一に接遇を大切に、常に奉仕の心をもち、相手の立場を考え温かい思いやりがあり、チーム医療の即戦力となる救急救命士の育成を目的とする																																														
認定年月日	令和3年3月25日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
2年	昼間	2205	1020	0	1125	0	60																																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																										
80人	84人	0人	6人	5人	11人																																										
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 学修評価判定基準に則る 評価の方法: 定期考査及び、毎授業時間の出席状況、授業態度を考慮して成績を評価する。実習においては技術の習得状況も考慮する																																											
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月6日 ■学年末:3月25日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件: 教育課程に基づく履修時間全ての出席をし、定期考査においては60%以上の得点でこの単位を修得したものと認定 進級要件: 教育課程に基づく履修時間全ての出席をし、定期考査においては60%以上の得点でこの単位を修得したものと認定																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任及び副担任が1人1人の学生の状況を把握し各々に必要な指導、助言、支援等を行っている。また、学生の相談しやすい環境を整える為声掛けにも努めている。保護者にも連絡できる体制を整備している		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 牛久マラソン、守谷マラソンの救護ボランティア NBC災害のボランティア ■サークル活動: 無																																											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 各自治体の消防本部、医療機関、各地方自衛隊本部等 ■就職指導内容 個人面談、履歴書作成、面接指導、ビジネスマナー、校内就職ガイダンス等 ■卒業生数 39 人 ■就職希望者数 38 人 ■就職者数 29 人 ■就職率 79 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 76.3 % ■その他 なし (令和 4 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急救命士</td> <td>①</td> <td>22</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	救急救命士	①	22	16																																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																												
救急救命士	①	22	16																																												
中途退学の現状	■中途退学者 5名 令和4年4月1日時点において、在学者84名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者79名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 本人自身や保護者を含めて、休学や転科の検討等選択肢を含めて数回に渡り面談を行っている。入学前のオープンキャンパスや学校見学会の内容を充実させ学校情報をできる限り開示し、入学後の生徒の気持ちに差異が生じないように努めている。		■中退率 6%																																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																														
当該学科のホームページURL	https://www.koyo-gakuen.ac.jp/tsukuba/index.php																																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
職業に必要な実践的かつ専門的な能力を有し、社会から求められる人材を育成するため、教育課程編成委員会における企業・業界団体等の意見、情報等を十分に活かし、最新の実務の知識、技術、技能を修得できる教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
校長の下に設置し、委員会の委員長を学校長とし、教育課程について委員会で審議、評価する。委員会であげられた意見等を十分にいかし教育課程に反映させるため、必要なカリキュラムの改善及び課題の検討を重ね、より実践的な専門知識や技術を習得するための教育課程を編成していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
柳田 国夫	東京医科大学茨城医療センター 副院長 集中治療部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
海老原 幸二	稲敷広域消防本部 救急課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
川上 美智子	社会福祉法人関輝会 みらいのもり保育園 園長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	②
鶴見 勲	日清医療食品株式会社 東関東支店 支店長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	②
村山 正利	公益社団法人 茨城県獣医師会 理事	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
市川 一隆	ホテルグランド東雲 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
内田 十九二	フランス家庭料理グルマン 代表	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
関 博幸	株式会社筑波学園ホテル 副総支配人兼総務部長	令和4年8月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
根本 雅文	一般社団法人 茨城県洋菓子協会 理事	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
中山 健	Bake.N バイクン 代表	令和3年6月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
今井 恭子	つくば栄養医療調理製菓専門学校 学校長	-	-
赤星 康彦	つくば栄養医療調理製菓専門学校 副校長	-	-
川島 邦子	つくば栄養医療調理製菓専門学校 副校長 栄養士学科長	-	-
壹岐 千夏	つくば栄養医療調理製菓専門学校 栄養士学科長補佐	-	-
野本 英雄	つくば栄養医療調理製菓専門学校 救急救命学科長	-	-
斎藤 達也	つくば栄養医療調理製菓専門学校 調理師学科・専門調理師学科長	-	-
矢口 旭	つくば栄養医療調理製菓専門学校 製菓製パン学科長	-	-
丸尾 佳代子	つくば栄養医療調理製菓専門学校 教務課長	-	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月26日 13:00～15:00

第2回 令和5年1月27日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員からの意見・提言に対し以下の取り組みを実施、または今後の課題として検討を進める。各専門分野において長く活躍できるよう、職業理解、自己理解を深めていくための指導の強化、および職業意識を高めるために引き続き卒業生、企業との交流、本委員会より得た内容を学生と共有することで社会に出てからのギャップを減らし離職率軽減へつなげていく。また引き続き基本的なマナー、コミュニケーション能力向上の指導とともに実技科目においては基礎が大切との提言から、より一層の指導をしていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 救急救命士養成施設の必修科目であり、学生が救命士として必要な実践的かつ専門的な知識・技術が学べるよう連携する企業（消防・病院）と積極的に取り組む。又、在学中の学びの成果を発揮し実社会に向けての体験を得ることで就職意識を向上させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 栄医療従事者としての業務を理解しチーム医療を学ぶために連携施設において、学生の実習の場を設ける。実習内容については実習先担当者十分に打ち合わせをし、現場においての迅速な対応や接遇を理解し救急救命処置の学びを深め、事前打ち合わせにおいて定めた指導方針に沿って、指示に従うことができたか、守秘義務が理解できたか、目的意識を持って積極的に取り組めたかなどの評価を得る。また、実習後には学生にフィードバックしその後の学びにつなげる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
シミュレーション実習 VI	救急医療機関及び消防機関の役割や業務内容について理解する。医療機関での診療行為や救急救命処置に関わる技能を習得し、守秘義務や個人情報の取り扱いなどについても自覚と責任を持ち、医療人としての精神を学ぶ。消防機関においては救急現場での傷病者への接遇要領、観察処置及び資器材の取り扱いを学ぶ。	稲敷広域消防本部、つくば市消防本部、土浦市消防本部、石岡市消防本部、我孫子市消防本部、他 計17施設
シミュレーション実習 VI	救急医療機関及び消防機関の役割や業務内容について理解する。医療機関での診療行為や救急救命処置に関わる技能を習得し、守秘義務や個人情報の取り扱いなどについても自覚と責任を持ち、医療人としての精神を学ぶ。消防機関においては救急現場での傷病者への接遇要領、観察処置及び資器材の取り扱いを学ぶ。	筑波メディカルセンター、茨城県立中央病院、日立総合病院、筑波大学付属病院、水戸済生会総合病院、他 計9施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 教務内規に基づき、教員の指導力の向上、新たな知識や技術の習得、クラス運営力の向上などを目的として研修を行う。研修計画については、外部機関・組織等も活用し、有意義でスキルの上昇につながる研修を受けられるよう体系的に策定していく。また、外部の研修等に参加した教員は学科内の他の教員に対し、伝達講習を行うなど学科全体への周知を図っていく。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 救急救命士養成所専任教員講習会	連携企業等： 厚生労働省医政局
期間： 令和4年12月19日（月）～23日（金）	対象： 養成所専任教員
内容： 救急救命士養成所専任教員としての資質向上のための知識、技能の習得	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 『伝え方』等	連携企業等： NPO法人雇用人材協会
期間： 令和5年3月17日（金）	対象： 教職員
内容： 時代の変化に合わせた学生への伝え方、教職員内での伝え方	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 進路指導者連絡会議	連携企業等： 自衛隊茨城地方協力本部
期間： 令和5年6月	対象： 茨城県南、県西地域の高等学校及び専門学校
内容： 進路指導としての自衛官の業務内容の把握	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 学生のキャリア支援に向けた自己理解、コミュニケーション	連携企業等： 茨城キャリア形成・学び直し支援センター
期間： 令和5年8月	対象： 教職員
内容： 自己理解を深めるための関わり方、聴き方等	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己点検・自己評価の結果に対して、年2回の外部の委員による学校関係者評価を実施し、学校が行った評価が適切であるか客観的な評価を頂く。この審議内容を踏まえ、次年度以降の改善につなげ、組織的・継続的に学校運営を改善していく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1. 教育理念・目的・人材育成像
(2)学校運営	2. 学校運営
(3)教育活動	3. 教育活動
(4)学修成果	5. 学修成果
(5)学生支援	6. 学生支援
(6)教育環境	7. 教育環境
(7)学生の受入れ募集	8. 学生の受入れ募集
(8)財務	9. 財務
(9)法令等の遵守	10. 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	11. 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

変化の大きい社会情勢を踏まえ、「教育理念・目的・人材育成像」では現在求められている人材に合わせたキャリアデザイン力の強化、探求的な学びの取り入れ等、意見をいただくことができた。新型コロナウイルス感染症の制限緩和により、学生受け入れ募集等対面で実施できるようになったことからSNSなどの両方から情報発信をしていく、社会貢献、地域貢献においてもさらに地域との連携を深めていくことなど、時代の変化に沿った運営に向けてのご意見、ご提案に基づき、今後も評価を実施する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
海老原 幸二	稲敷広域消防本部 救急課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
村山 正利	公益社団法人 茨城県獣医師会	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
伊藤 久美子	茨城県立中央病院 栄養管理科	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
池田 和輝	菓子工房 和楽	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
湯原 幸子	茨城県立つくば看護専門学校	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	高校等教員
黒田 真由子	株式会社 筑波学園ホテル ホテル日航つくば	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
悦喜 浩美		令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	保護者
浅野 百合子		令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	保護者
一石 肇		令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	保護者
大貫 瞬汰	大洗町消防本部	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生
松浦 希	社会福祉法人つつみ会 特別養護老人ホームみどりの杜	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生
高田 峰夫		令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.koyo-gakuen.ac.jp/tsukuba/schoolinfo/index.html>

公表時期: 令和5年4月20日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

連携企業等に対して年度ごとに学校案内(パンフレット)を送付し、最新の情報提供に努める。学校の状況をより理解いただけるよう、刊行物やホームページ等を活用した情報公開を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1. 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	2. 各学科の教育
(3) 教職員	3. 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	4. キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	5. 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	6. 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	7. 学生納付金および修学支援
(8) 学校の財務	8. 学校の財務
(9) 学校評価	9. 学校評価
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・(広報誌等の刊行物)・その他()

URL: <https://www.koyo-gakuen.ac.jp/tsukuba/schoolinfo/index.html>

公表時期: 令和5年4月

授業科目等の概要

(専門課程救急救命学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			基礎数学	基礎分野である科学的思考の基礎及び人間と人間生活について、基礎数学を学び理解を深める。	1後	60	4	○			○			○	
2	○			基礎科学	基礎分野である科学的思考の基礎及び人間と人間生活について、自然科学（生物学・化学）を学び理解を深める	2前	60	4	○			○			○	
3	○			文章表現・心理学	基礎分野である科学的思考の基礎及び人間と人間生活について、文章表現・心理学を学び理解を深める。	1後	60	4	○			○			○	
4	○			国文学	基礎分野である科学的思考の基礎及び人間と人間生活について、国文学を学び理解を深める。	2前	60	4	○			○			○	
5	○			体育	空手道を通じて我慢強さ、礼儀を養える、人間に成長するための一助にする	1通	60	4			○	○			○	
6	○			人体の構造と機能	1. 専門基礎分野である人体の構造と機能について理解する。2. 人体を構成する要素・神経系・呼吸系・循環系について理解する。3. 神経系・呼吸系・循環系について理解する。4. 消化系・内分泌系・血液・免疫系について理解する。	1前	60	4	○			○			○	
7	○			基礎医学1	1. 基礎医学である病態生理学について理解する。2. 基礎医学となる疾患・炎症・感染・循環障害・先天異常について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
8	○			基礎医学2	1. 基礎医学である病態生理学について理解する。2. 基礎医学となる代謝・腫瘍・死について理解する。	1後	30	2	○			○			○	

(専門課程救急救命学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
9	○			基礎医学3	専門基礎分野である基礎医学3について、薬物、検査、感染と予防、放射線の知識を医療を理解する。	2前	30	2	○			○			○	
10	○			看護学・公衆衛生学・社会保障他	専門基礎分野である健康と社会保障について理解を深める。1. 保健医療制度と公衆衛生、各専門看護を理解する。2. 社会保険を理解する。3. 公的扶助と社会福祉を理解する。	2前	30	2	○			○			○	
11	○			救急医学概論	1. 医の倫理と生命倫理。2. 救急救命士法と関連する各種法令。3. 救急救命士の役割と責任、接遇要領。4. 安全管理と事故対応について。5. 感染対策とストレスマネジメント。	1前	30	2	○			○			○	
12	○			救急医療・患者搬送	我が国の救急自動車における救急搬送の現状、ドクターヘリ及びドクターカーの病院前医療の適応と運用方法及び現状、救急告示病院制度と初期・二次・三次医療機関と役割と要件、周産期、精神科、小児の救急医療体制について説明できる。救急医療体制について説明できる。	1前	30	2	○			○			○	
13	○			救急処置総論	救急救命処置の定義及び目的、適応、禁忌、手技、合併症についてを説明できる。	1前	30	2	○			○			○	
14	○			観察と評価及び検査	観察の目的および重要性を理解しバイタルサインを始めとした生理学的評価と局所の観察による解剖学的評価を的確に行う技能を身につけ、それらの評価結果を瞬時に勘案し重症度・緊急度を判断、適切な医療機関に搬送することのできる能力習得を到達目標とする。	1前	60	4	○			○			○	
15	○			症候と病態 I	実際の救急現場において、特に重症度・緊急度が共に高い事案が多く発生する、各種ショック・重症脳症・心肺停止傷病者に対し各病態の発生機序を正しく理解し原因を見極め、迅速に必要な処置を行い症状に適した医療機関を選定し緊急搬送を行うことのできる能力習得を到達目標とする。	1前	30	2	○			○			○	
16	○			症候と病態 II	専門分野である救急症候・病態生理学について、呼吸不全、心不全、めまい、胸痛、腹痛、呼吸困難、動悸、喀血、吐血・下血を理解する。	1前	30	2	○			○			○	

(専門課程救急救命学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
17	○			症候と病態Ⅲ	意識障害・頭痛・痙攣・運動麻痺・失神・腰背部痛・体温上昇の各病態についての発生機序を正しく理解し原因を見極め、更に症状に適した医療機関の選定をすることのできる能力習得を到達目標とする。	1後	30	2	○			○		○		
18	○			血糖測定・ブドウ糖投与	救急医学概論について、各項目別に理解を深める。1. 医の倫理と生命倫理2. 救急救命士法、関連する各種法令3. 救急救命士の役割と責任4. 安全管理5. 感染対策	2前	30	2	○			○		○		
19	○			疾病救急医学 1	1. 専門分野である疾病救急医学について、医学総論を理解する。2. 専門分野である疾病救急医学について、呼吸器疾患を理解する。3. 専門分野である疾病救急医学について、循環器疾患を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
20	○			疾病救急医学 2	1. 専門分野である疾病救急医学について、消火器系疾患を理解する。2. 専門分野である疾病救急医学について、泌尿・生殖系疾患を理解する。	1後	30	2	○			○			○	
21	○			疾病救急医学 3	1. 専門分野である疾病救急医学について、内分泌・代謝系疾患を理解する。2. 専門分野である疾病救急医学について、血液・免疫系疾患を理解する。3. 専門分野である疾病救急医学について皮膚系疾患を理解する。4. 専門分野である疾病救急医学について、眼・耳・鼻の疾患を理解する。	1後	30	2	○			○			○	
22	○			疾病救急医学 4	神経系の救急疾患で重要な脳血管障害と脳卒中の概念及びくも膜下出血、脳出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、髄膜炎、脳炎と脳症、ギランバレー症候群、てんかん、脳腫瘍の病因、症状、現場活動と皮膚の構造と役割について説明できる。	1後	30	2	○			○			○	
23	○			疾病救急医学 5	小児の特徴と救急疾患を理解する。生殖系に付随する救急疾患を理解する。老年期の特徴と救急疾患を理解する。	2後	30	2	○			○			○	
24	○			疾病救急医学 6	1. 歯・口腔系疾患についての理解を深める。2. 特異な感染症のうち、類型とその性格について理解する。3. 精神症状及び精神障害の主な疾患について理解する。	2後	30	2	○			○			○	

(専門課程救急救命学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
○			救急処置各論	救急活動で使用する観察資器材を目的ごとに分類して列挙、使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価についてそれぞれ説明できる	1後	30	2	○			○		○		
○			外傷 1	1. 専門基礎分野である外傷救急医学についてまずは外傷の定義と種類と理解する2. 外傷傷病者の重症度評価、解剖学的評価、受傷機転、既往歴などを考慮した病院選定を理解する3. 外傷における現場活動の基本と外傷に伴うショックの原因と分類を取得する。	1前	30	2	○			○		○		
○			外傷 2	1. 外傷救急医学の頭部外傷、顔面・頸部外傷、脊椎・脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷を理解する。2. 上記外傷における局所解剖、発生機序と病態、おもな損傷、及び観察と処置を理解する。	1後	30	2	○			○		○		
○			外傷 3	1. 専門分野である外傷救急医学のうち、骨盤外傷、四肢外傷、小児・高齢者・妊婦の外傷、熱傷を理解する。2. 上記外傷における局所解剖、発生機序と病態、おもな損傷、及び観察と処置を理解する。	1後	30	2	○			○		○		
○			環境障害と中毒	1. 急性中毒の種類と発生機序、病態生理についての理解2. 溺水、熱中症、偶発性低体温の発生機序と病態生理3. 環境障害の種類と発生機序、病態生理を理解する。	2後	30	2	○			○		○		
○			シミュレーション実習 I	一次救命処置の基本である意識・呼吸・脈拍の観察、手動的気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、1人及び2人の心肺蘇生法三角巾による被覆と固定、JPTEC及び内因性疾患(SHA)の現場活動ができる。	1前	180	4			○	○		○		
○			シミュレーション実習 II	想定訓練にて、ラリングルマスク(LM)・ラリングルチューブ(LT)・気管挿管の適応及び手技、合併症と救急隊員の活動を理解し説明できる。	1後	180	4			○	○		○		
○			シミュレーション実習 III	1. 内因性救急活動要領を理解し、習得する。2. 静脈路確保要領、ライン作成要領の習得。3. 薬剤投与(アドレナリン、ブドウ糖)要領	2前	180	4			○	○		○		

(専門課程救急救命学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
33	○		シミュレーション実習Ⅳ	シミュレーションのまとめと位置付けし、各種内因性疾患・外傷を想定した隊活動訓練を集中的に行うことにより、救急隊長・隊員として必要とされる現場安全管理から観察・処置・搬送までの総合的判断力を養い救急隊員としての資質向上を目的とする。	2後	180	4			○	○		○		
34	○		シミュレーション実習Ⅴ	1. 訓練想定に基づく実践的な救急活動要領 2. シミュレーション実習Ⅰ～Ⅴの総括と実践能力の習得。3. 訓練想定を自ら作成し、実践する能力を習得する。	2後	180	4			○	○		○		
35	○		シミュレーション実習Ⅵ	病院内臨地実習に備え県内の医療体制および各医療機関の受け入れ態勢を学び、臨地実習要項・臨地実習経験表実習項目に掲げる31項目についての理解を深めると共にそれらに関連する手技を習得し臨地実習の目標を達成することを目的とする。	2前	225	5			○	○	○	○	○	
合計					35	科目	97 (2205)			単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：全ての単位修得	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：教育課程に基づく履修時間全て出席、定期考査で60%以上の得点取得	1 学期の授業期間	19 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。